



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント	
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足					
3/16 (月)	+ 800	▲ 3,400	▲ 2,600	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行償還 (個人) 国債発行 (GX10年)	国債補完供給 +5,600 貸出増加支援 ▲50,000			
3/17 (火)	トン	+ 6,000	+ 6,000				米: 景気先行指数 (2月) FOMC (1日目)	
3/18 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国債発行 (20年)	共通担保(全) ▲ 8,000		日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 春闘の集中回答日 貿易収支 (2月) 米: FOMC (2日目) 欧: ユーロ圏CPI (2月)	
3/19 (木)	▲ 1,000	+ 15,000	+ 14,000	各種財政資金の支払い			日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: 日米首脳会談 新築住宅販売件数 (1月) 欧: ECB 政策金利発表	
3/20 (金)	春分の日							

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆500億円減少の448兆500億円から始まった。その後、国債発行や国債買入オペ等の要因により増減し、13日は446兆2,300億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後も概ね横ばいで推移したものの、一部金融機関が試し取りを行った影響で、12日は0.734%となった。

ターム物は1W~3W物0.720%~0.860%のレンジ、1M~3M物0.950%~1.100%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では18日~19日に日銀金融政策決定会合、海外では17日~18日にFOMC、ユーロ圏CPIの公表、19日に米ワシントンでの日米首脳会談と、ECBによる政策金利発表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.90 ~ 1.10
2M	0.90 ~ 1.15
3M	1.00 ~ 1.20
6M	1.05 ~ 1.30

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

### <レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%近辺で取引された。買入れオペのあった10日も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470~479回債、5年155~181回債、10年356~371回債、378~380回債、20年110~130回債、20年195回債、30年86~88回債などに引合いが見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約2兆485億円で、週間償還額の2兆70億円を上回った。発行残高は、先週末時点の26兆716億円から、3月12日時点で25兆5,426億円へと減少した。発行市場では、電気機器・不動産業・建設業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.90%台から1.1%台程度、3ヶ月物で1.0%台から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約2兆円となっている。発行市場は、引き続き決算期末に向けた有利子負債圧縮が進むことから、ショートターム物を中心とした落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、日本銀行による利上げ継続姿勢に加え、年度末を越える資金需給の逼迫もあり、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

### <TDB>

9日の6M (第1367回債) の入札は、最高落札利回り0.8726% (前回債0.8627%)、平均落札利回り0.8626% (前回債0.8484%) となった。

13日の3M (第1368回債) の入札は、最高落札利回り0.7796% (前回債0.7756%)、平均落札利回り0.7740% (前回債0.7667%) となった。

来週の入札は17日に1Y、18日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。